



オオキチくん通信

2023年1&2月号

発行: NPO法人森からつづく道

URL: <http://morimichi.org/>

★上記HPからダウンロードできます

地球温暖化(ちきゅうおんだんか)のえいきょうで、南にいた生きものが、北の方にすむようになってきたといわれているよ! トンボも新しいなかまがやってきた!

独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金の助成を受けて作成しています。



協力: 風早活性化協議会

なんぼうけい

えひめで見られるようになった南方系のトンボたち

地球があたたかくなっているから? 乾燥(かんそう)化? それとも...?

南の国や沖縄(おきなわ)など、あたたかいところに多いトンボたちだよ!

(写真: 今川博久氏)



オス

アオビタイトンボ

大きさ: 4cm
顔(かお)に青緑色の光沢(こうたく)があるトンボ。

愛媛県(えひめけん)では2006年にはじめて見つかかり、その後、数か所で記録(きろく)されています。山口県(やまぐちけん)ではふつうに見られるようになってきているそうです。

(武智礼央)



メス

オス

ベニトンボ

大きさ: 4cm
オスはピンク色になるきれいなトンボ。

愛媛県(えひめけん)では2007年にはじめて見つかかり、今では北条地域(ちいき)でも見かけます。内子町(うちこちょう)では真冬(まふゆ)にヤゴが見つかっています。

(写真: 高橋士朗氏)



オス

ハネビロトンボ

大きさ: 5.5cm
翅(はね)が大きくてフワフワ飛ぶトンボ。

毎年台風(たいふう)のときなどに飛んできて、北条地域(ちいき)でもため池(ためいけ)でときどき見かけます。2007年はあたたかかったからか、真冬(まふゆ)にヤゴが見られました。



オス

メス

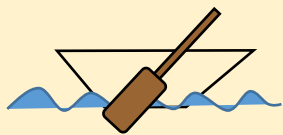
スナアカネ

大きさ: 4cm
細身(ほそみ)のアカトンボのなかま。

南ヨーロッパやインド、アフリカなど、大陸(たいりく)から飛んできます。愛媛県(えひめけん)では2014年にはじめて見つかかり、2019年には北条地域(ちいき)で初夏(しよか)に何頭も羽化(うか)が見られました。



ガザミ (ワタリガニ)



ボートをこぐときのオールみたいですね

甲羅(こうら)の大きさ 15cm~25cm	別名(べつめい) ワタリガニ、ヒシガニ
ハサミの特徴(とくちょう)/名前(な)の由来(ゆらい)	
はさまれたらケガをするほど強(つよ)いハサミだから「ガザミ」	
脚(あし)の特徴(とくちょう)	
いちばん後(うしろ)の脚(あし)をオールみたいにつかかって泳(およ)ぐよどこにいるの?	
水深(すいしん)5~30メートルに多く、内湾(ないわん)が好(す)きだよ。温(あたた)かい時期(じき)は浅(あさ)いところで生活(せいかつ)し、秋(あき)になると深(ふか)いところに移動(いどう)し、冬(ふゆ)には砂(すな)に潜(もぐ)って冬眠(とうみん)するよ。	

(若山勇太・写真/松井宏光)

あのムシは今!? [オオムラサキ]



はねを広(ひろ)げると8~10cmくらい



↑越冬(えつとう)幼虫(ようちゆう)
(えつとうようちゆう)

にてるけど、ちがう...
ゴマダラチョウの越冬(えつとう)幼虫(ようちゆう)

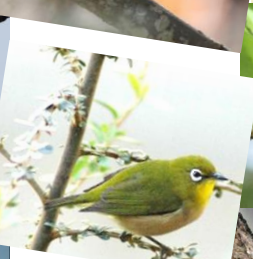
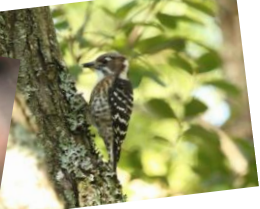


オオムラサキの緑色(みどりいろ)の幼虫(ようちゆう)は、エノキの葉(は)を食べて育ち、冬(ふゆ)になると色が茶色(ちやく)に変わり、木(き)からおりて、枯葉(かれは)の裏(うら)で越冬(えつとう)します。写真(しゃしん)の幼虫(ようちゆう)を見てください。背中(せなか)の突起(とつき)が4つあるのがオオムラサキ、2つ目がほとんどないのは、ゴマダラチョウです。

(若山勇太・写真/武智礼央)

今が旬！
生きもの情報

こんぐん
小鳥たちの混群！
いどう
～冬はコミュニケーションしながら移動！～



ヤマガラ

シジュウカラ

エナガ

メジロ

コゲラ

冬の里山(さとやま)の林では、カラ類(るい)など、いろいろな小鳥が群(む)れになって、移動(いどう)しながらえさとりなどを行っているよ。「2種3羽以上、たがいに25m以内、最短(さいたん)5分はいっしょにいて、同じ方向(ほうこう)に30m以上移動(いどう)する」群れのことを、混群(こんぐん)といいます。里山では、エナガ、シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、コゲラの群れがみられ、多いときは数十羽(すうじゅうつば)になることもあるよ。混群になる理由(りゆう)は、えさとりのためや天敵(てんてき、ハイタカやモズ)から身を守るためと考えられています。ちがう種類(しゅるい)の鳥がたがいにコミュニケーションをとりながら移動している様子をこの冬はじっくり観察しよう。

シクラメンの
ハクチョウ！

草 花 であそぼう！

冬の湖(みずうみ)で遊(あそ)ぶハクチョウを作ってみました。シクラメンの花とつぼみを組み合わせると、ほら、ハクチョウらしくなりました。ちょっと羽(はね)の色が紅色(べにいり)ですが。



今月の植物
★ヤドリギ



冬、エノキなどの葉がおちると、えだの先に、緑色の鳥のすみtainなヤドリギがよく目立ちます。丸(まる)い実の中にはネバネバした液につつまれたタネがあります。

そうやったんかい！ 外来生物 ④

セアカゴケグモ



オーストラリア原産(げんさん)の毒(どく)を持つ黒いクモで、腹(はら)の赤いもようがとくちょう。

1995年に大阪府(おおさかふ)と三重県(みえけん)で日本ではじめて確認(かくにん)され、愛媛県(えひめけん)では2014年にはじめて見つかりました。松山市(まつやま)でも空港(くうこう)周辺(しゅうへん)で見つかりました。(愛媛県生物多様性センター 村上裕氏)

ちょっと
いっぶく

葉っぱの冬ごし

寒くなると地面(じめん)にぴったりとくつき丸く広がった葉っぱを見かけます。



ヒメジオン

ヒメムカシヨモギ

この形(かたち)は、背(せ)をひくくして風を受けず、地面の熱(ねつ)を利用(りよう)することができます。また、葉っぱを広げているので、効率(こうりつ)よく光合成(こうごうせい)ができます。